

Title	ジン・ フェインの叛乱 (下)
Sub Title	
Author	占部, 百太郎
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1917
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.11, No.1 (1917. 1) ,p.37- 71
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	論説
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19170107-0037

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

あるは、佛露伊三國の對外債務決済に幾多の便宜を與へつゝあることを認めざる可からず、四國の正貨支拂に於ける因果の關係斯の如く爲る以上は、佛露伊三國の中央銀行が戰前に於て、又は開戰後に兌換制度を停止し、必ずしも巨額の正貨を有するを要せざる事情に基き、英國の爲めに、正貨の一部を割譲し、他くまでも英國の兌換制度を擁する責任あるは、明白の事實なると共に、之を以て四國金融上に於ける利害の一致點とせざる可からず。固より英國が對米債權の回收に依り、外國に於ける募債に依り、將た又聯合國に於ける金貨の融通に依り、現時に於ける國際貸借の不均衡を匡正し、以て兌換制度の維持に資するは、患を後代に及ぼすの嫌なきを得ず、戰後英國が經濟的勢力を恢復せんとするに當て、一箇の障害を成すに至るは、已むを得ざる所なりと雖も、戰時の今日兌換制度を停止し、紙幣價格の低落を惹起すと共に、將來に於ける國際金融中心點たるの信用を失墜するものに比較するときは、利弊の同日に談す可からざるものあり。茲に於てか吾輩は英國が百難を排して兌換制度を維持す可く、又今日其維持を斷念するの理由なきことを信せんとするものなり。

ジン・フェインの叛亂 (下)

占部 百太郎

- (一) アルスターの戰闘準備
- (二) 新愛蘭運動とジン・フェイン
- (三) グェリック同盟
- (四) 愛蘭市民軍の「直接行動」
- (五) 英國の窮境は愛蘭の機會
- (六) 慘憺たるダブリンの市街戰
- (七) ケースメント以下の處刑
- (八) ロイド・ショルツ自治法實施仲裁の失敗
- (九) 愛蘭の事失望す可らず

愛蘭の北部地方はエリザベス時代前後から英蘭及蘇格蘭方面よりの移住者が多少あつたのであるが、殊にウィリアム三世がジョージムス二世の率ゐて居た舊教徒をポーンズの戰で撃破したる後に至つて是等の移住者が急激に増加した。アルスターは即ち是等の移住新教徒が、愛蘭土人を放逐して造つた殖民地と云ふ可きである。(過激なる愛蘭の新教徒を Orangemen と呼ぶはウィリアム・オブ・オレンヂに因

むだのである。アルスターにもケルト族なる舊教徒が今尙多少存在して居るけれど、先づ大體に於て新教徒たる英國人の優勢なる此地方は、羅馬教徒でケルト族の多數を制せるミュンスター、レインスター、コンノット三地方との間に顯著なる相違がある。(一)南北宗教の相異は過去に於て悲惨なる記録を止めて居ること既に述べたる如くで、オレンヂメンは今も尙年々ボーインの戦勝を紀念して、新教の勝利を祝して居るのである。(二)アルスター人は一部は進歩的農民であつて、言語や習慣に於て著しく蘇格蘭の Lowlanders に似て居るが、他の一部は活氣ある製造工業の人民であつて、愛蘭の他地方の住民とは異つて、反つて北部英國の人民や或は寧ろ加奈陀の近世的都市の人に類似して居る。(三)經濟上の利害に於てもアルスターは大に他地方と相違がある。アルスター人の主要なる商業取引は大英國及び海外諸國との間に行はれて、愛蘭の他地方とは左程の利害關係はないのである。是等の理由からしてアルスター人の同情は同島内の他の愛蘭地方に向はずして却つて北英や南蘇地方に存して居るのである。尙北方の愛蘭人は力量があり、實際的才能と能率に富むで居るが、南方の愛蘭人は多感で想像に富み、且物事に熱し

易きことは、既に前編に述べたる如くである。然し歲月の經過とともに離婚等も行はれて、アルスター地方たると、他の三地方たると、又新教徒たると舊教徒たるとを問はず、愛蘭人には愛蘭に住する人民に共通したる氣質や風貌の争ふ可らざる類似點あることは認めざるを得ない。けれど新教徒で英國移民たるアルスター人が舊教徒でケルト種族たる他の愛蘭人と種々の點に於て利害感情を異にして居ることは顯著なる事實である。

夫れで一九一二年アスキース内閣が愛蘭自治法案を國會に提出すると、アルスター人はサー・エドワードカーソン指揮の下に激しく之に反對し始めた。彼等が反對の理由は第一此の如き重大なる問題を先づ選舉人殊に直接利害の大關係ある地方の人民に圖らないで、イキナリ法律の力を用ひて、アルスター人をば大英國から引き割いてダブリンに新設せらる可き愛蘭國會の配下に置かむと強制するは非理であると云ふのである。(三)田學會雜誌大正五年十二月號五〇頁—五三頁参照。又ダブリン國會は自然羅馬教徒が多數を占めるから、少數の新教徒に對して寛容を缺く虞あるのみならず、縦令愚劣なる若くは差別的課税に依てアルスタ

一人を誅求しないまでも、同地方の經濟的發達に對して適當の施設を爲すことは出來ないであらう。夫れから他地方に比べて富盛なるアルスターは自然國費は多く負擔して毎時國會では多數決で他の地方から壓倒せらるゝ虞れがあると云ふのである。

是等の理由に依つて、アルスター人は他く迄も愛蘭自治法の實施に反對する決心を以て夫れ／＼誓約書に調印し、忽ちにして十萬人の義勇兵が募集せられ、最初は隱然と後には公々然と兵式の訓練をすることになつた。英國政府でも最初の程は愛蘭自治を妨害せむとする畢竟囑喝に過ぎないと高を括つて居たのであるが、アルスター人が殆ど政府を眼中に置かないかゝる大膽不敵の態度に對して其儘看過する事は政府の威信から云つても出來なくなつて來た。然し愛蘭の四分の一が武力を用ひて抵抗しやうとするのであるから、容易に手出しもならず、當分傍觀の態度を採つて居ると、今度は愛蘭國民黨の方で、アルスターの義勇兵に對する對抗の示威運動として、武備を整へ始めた。既に一方を看過したのであるから、他方に對しても強硬な手段に出づることは出來ず、愛蘭は恰も兩軍對抗の有様で

形勢は益々不穩を呈して來た。所が茲に今一個事件が持上つた。夫れは政府がアルスターに於ける萬一に備える爲、ベルファストに軍艦を派遣すると同時に、愛蘭のカルラー駐屯の軍隊をばアルスターへ轉勤を命じたるに、多數の士官はアルスター人に同情を有する故を以て辭職を申出でた事である。是等の辭表提出に對して、當時の陸軍大臣シーレー大佐、サー・ジョン・フレンチ將軍等がカルラー騎兵隊長に與へたる覺書中に、内閣は軍隊に命令を與る權利を利用して自治法案の政策並びに原則に對して政治的反對を唱ふるものを壓伏せむとする何等意圖を有する者に非ず云々の語を挿みたる事が一層事局を紛糾せしめ、結局シーレー、フレンチを始め、カルラー騎兵隊長以下將校五十七人の解職を見るに至つた。

愛蘭自治案が未だ兩院を通過せざるに方つて、アスクイス内閣はアルスターをば到底自治法の下に強制的に支配する事の不可能なるを認め、たので、北部の六州に限つて、當分の間愛蘭自治法實施の範圍外に置く可き事を提議した。然し政府の此讓歩は既に晚かつた。一方愛蘭に於ける風雲は益々危急を告げて來た。四月廿四日アルスターの義勇兵が三萬五千乃至四萬挺のライフル銃と百萬發の彈

尤を外國から密輸入してライオン、パンゴルド、ナガデーの各地に陸揚げしたとの事が傳へられた。國民黨の義勇軍も之が對抗策にをさく怠らない。自治案は五月廿五日二百七十四對三百五十一票の多数を以て國會法に據り三度目に庶民院を通過して直ちに貴族院に送附せられたが、茲では殆ど完膚なきまでに修正を加へられた。此間種々な醜惡なる出來事が頻出して、英國政界の事殆ど收拾す可らざるの状態であつた。仍で國王ジョルジ五世陛下は兩大黨首領を始め愛蘭自治に關係ある政界の領袖を御前に召されて、四日間圓卓會議が催されたけれど、談判は結局不調に畢つたのである。此最後の調停が破烈したのは、兩方の領袖が一致の點を發見し得なかつたが爲ではなくして、愛蘭に於ける國民黨側とアルスター側との敵愾心が嵩じて、最早道理も命令も行はれざるに至つた爲である。此の如くして愛蘭は歐洲に於て大戰亂が破烈せむとする前に方つて、殆ど内亂の淵に瀕して居たのである。

二

此の如く愛蘭問題は干戈に訴るの外、最早何等解決の方法なきまで行詰つて居

た所に恰も歐洲の大戰亂は破烈した。より以上の大事件が爆破しても尙且内争を事とするが如きは、決して英國人の國民性と相容れざることは歴史の證明する所である。カイゼルが愛蘭問題の爲内訌して居るのを觀て、英國は到底外を顧る能はずと斷じたのは大なる誤算であつたのである。七月三十日宰相アスクイヌは反對黨の首領ボナローと協議の上國會に於て愛蘭自治法修正案の討議を無期限に延期する旨を宣言した。八月三日愛蘭國民黨首領レドモンドは英國政府に向つて愛蘭から駐屯兵を撤退せしめ同地の防備は一致協力して英國に忠良なる可き國民黨とアルスターの義勇兵に放任す可き旨を宣言した。越へて四日英國が愈々獨逸に向つて宣戦すると、愛蘭の國民黨は對獨戰爭を以て英國の戰爭であると均しく愛蘭の戰爭であると稱して、アルスター人と戰爭す可く獨逸から密輸入したる武器を用ひて、獨逸人と戦う可く佛國の戰場に出征したる義勇兵も少なくなかつた。英國の對獨宣戦が獨逸の暴虐から小弱なる諸國民を救濟するに在ると云ふのが痛く愛蘭人を感奮させて、國民黨員は大に進むで愛蘭に於ける募兵事業に周旋したのである。歐洲の戰爭は偶々英愛間古來の惡感情を一掃して管

だ愛蘭問題をば圓滿に解決するのみならず、將來に於ける兩國間の親密なる協和を遂ぐ可きかの外觀を呈したのである。

所が不幸にも愛蘭には、以上の大局如何に無頓着なる徹頭徹尾排英的の諸分子があつた。其第一は即ち今回の叛亂の最大原動力たるシン・フェイン結社である。シン・フェインは一九〇五年に組織せられたる政社で其綱領は左の如くである。

シン・フェインの目的は愛蘭の獨立を遂ぐるに在り。此目的を遂ぐ可き政策は廣き國民的立場に於て愛蘭を統合するに在り。即ち(一)吾人(愛蘭人は特殊の一國民なる事。(二)吾人は大英國が愛蘭人の要求にかゝる國王陛下及び英國會の制定したる法律のみ惟り彼等を拘束す可き權利あることを茲に宣言し、且將來に向つて之を確保し、而して今後何時たりとも之を疑問とし若くは疑問とす可からず」と制定したる一七八三年の Renunciation Act に基ける其約束を遵守する迄は大英國と何等の隨意的協約を爲さざる事。(三)吾人は吾人自らの進歩の爲及び富強にして獨立なる國民ならむが爲には、吾人の現に有し或は將來何時たりとも有し得べき如何なる勢力をも之を利用す可く決心し

たる事。

尙同綱領に次の一個條がある。

個人としては公民たる者の權利義務の承認に依り、而して又國民的傳説を奉ずる愛蘭の内部に發生したる有ゆる運動の援助に依り、然も其目的を遂げたが爲決して愛蘭以外に依頼することなく、徹頭徹尾國民的自家發展が愛蘭に取つて肝要なる事。

シン・フェインは實に此の如き目的を抱いて生れたる團體である。翻て其起原を釋ぬれば、今より廿年程前から愛蘭に種々なる國民的革新運動が起つて來た。シン・フェインは即ち其の中堅とも稱す可きもので、下に説明するゲェリック同盟も他の一團體である。土地問題の解決せられた以來殊に一九〇三年の土地買収法の通過後愛蘭農民は漸く活氣を帯びて、信仰、政見、人種、階級の異同を問はず、愛蘭人たる者は先づ一致協力して新らしい愛蘭の建設に盡瘁せねばならぬ、殊に大に經濟上の發展を遂げて自家の富強を圖らねばならぬと主張するのである。「新愛蘭」New Ireland とは即ち此運動の謂である。一言以て之を蔽へば愛蘭は須らく愛

爾人自からの手に依つて革新せられねばならぬと云ふのが此運動の眼目である。是等の運動の最も顯著なる功果として見はれたは協同事業 (Co-operative Movement) と愛蘭農業革新協會 (Irish Agricultural Organization Society) である。此「新愛蘭」運動の一顯象たるシン・フェインは愛蘭以外に依頼することなく、徹頭徹尾國民的自家發展が愛蘭に取つて肝要なることを其綱領とするのであるから、始終愛蘭の政事をウエストミンスターの國會で隱謀的に畫策するとか、米國に在るアイリッシュ・アメリカンの寄附金に依つて運動するとかは、彼等の誓つて反對する所である。其の何處までも自助的自信的の運動で決して何等他人の手を借らないと云ふ點は眞實健全なる所であつて、此團體が多くの責任ある人士の同情を得たる所以である。それでシン・フェインとレドモンドを中心とする愛蘭國民黨とは、全然別個の性質を帯びて居るのである。シン・フェインは自治法なきも愛蘭人は其共有の邦土に對して有益なる事業を遂ぐるを得ると信じて居る。シン・フェインを始め「新愛蘭」各運動團體から見れば、國民黨は眞個に愛蘭人の意見を代表して居らぬと云ふのである。是等諸團體の國民黨に對する不平の第一は國民黨が排英的なるが故で

はなくして、充分なる親愛蘭的でなく未だ純乎たる國民的政治觀に到達して居らぬと云ふに在る。國民黨は輿論を製造して、自負的決議やお極りの喘着手段を以て他意見を壓へ、國民性と政治とを混同し、自黨の政綱及組織に貢獻する所なき人を以て非國民主義者であると排斥する。之に反し、新愛蘭は政治を以て寧第二の位に置き有ゆる階級信仰黨派の合同に努め、苟も愛蘭人の幸福に資するものは、其の何れより來るを問はず、之を歓迎するのである。一九一二年アスキイス内閣が愛蘭自治案を國會に提出したとき、國民黨は勿論此案に賛成したけれど、アルスター人の之に反對したると均しく、シン・フェインもゲエリック同盟も他の「新愛蘭」の諸團體も亦別の意味からして之に反對したのである。と云ふのは今回の自治案が愛蘭國會の自由に對して種々の制限束縛を加へて居るからである。隨つて是等の黨派は口を揃へて愛蘭自治法は虚偽である侮辱であると攻撃して、殆ど完膚なきに至らしめたのである。輓近のダブリン暴動は是等各團體の英政府に反對したる謀叛であつたと均しく、國民黨に對する腹癒せであつたことを了解しなければ、愛蘭問題の眞相は到底分るものでない。

然しシン・フェインは歐洲戦争破裂の後まで決して重大なる勢力を成さなかつたのであるが、其領袖等の間には何でも英國憎し随つて英國の事物は一切排斥す可しとの排英熱が高まると同時に、愛蘭を獨立させやうとの愛國心は一層痛切になつて來たのである。前掲の綱領と Sinn Féin の語が “Ourselves alone” を意味することを對照すると、此黨派の目的が結局英國の支配から全然獨立するに在つて、遂に干戈に訴へて之を達せむとするものであることを示して居る。此の如く英國に對する憎惡の感が痛切に赴くに連れて、既に法律となつて實施の運びとなつて居る愛蘭自治法などは素より彼等の眼中には在るものでない。此の如き不完全極まる法律の力を以てしては到底愛蘭問題は解決せらるゝものでなく、愛蘭の黄金時代は單に愛蘭の獨立を宣言して、英國との有ゆる關係を切斷するに在ると信じたのである。人種的僻見に捉はれて一圖に英國憎しとの念に驅られたる盲信に外ならずと雖、前編から述べ來りたる英愛兩人種間の關係に思ひ到れば多少同情す可き點がないでもない。

シン・フェイン結社も若し「愛蘭義勇兵」(Irish Volunteers)が組織せられて其黨員の手に武力を握ることがなかつたならば、恐らく大事を醸さなかつたであらう。元來「國民義勇兵」(Nationalist Volunteers)はシン・フェインやゲエリック同盟の黨員から組織せられたもので、アルスターをも籠めて愛蘭全體を統合したる國民的愛蘭(Nationalist Ireland)を建設せむとの目的から出來たのであるが、前に述べた如くアルスターの非自治運動に對抗して、愛蘭自治を遂行せむことを決心して居た(シン・フェイン等は現在の自治法には不満足であつたけれど)。所が此運動が急速に發展して來ると、國民黨の方では此團體を自家の用に供せむと企て、一九一四年の夏其推薦にかゝる廿五人の國民黨員を「國民義勇兵」の幹部に据えたのである。然し兩派の間兎角和合せずして、歐洲大戰破裂の後、シン・フェイン及びゲエリック同盟の義勇兵の多數は國民義勇兵から分離して、「愛蘭義勇兵」の名稱の下に別隊を組織したのである。是れは國民黨の方で英國の戦争を愛蘭の戦争と同一視せむとするに反對したる異議の結果であつた。彼等は主張して曰く、今度の戦争は愛蘭の戦争ではないと。爾して一九一四年九月發布の宣言書に於て彼等は「愛蘭は其國民から成る政府の自由なる行動に因るの外は其名譽と安全からして斷じて外國の戦

争に参加するを得ず」と宣言した。

戦局の進むに随つて、シン・フェインの組織と「愛蘭義勇兵」の指揮とは全然同一となり、益々排英的革命的となつたのであるが、一方「國民義勇兵」の多数は上述の如く英國陸軍に参加したけれど、其他は全く活動を停止した。シン・フェインが愈々公然不忠の舉に出で、愛蘭に於ける英國募兵の妨害を企て、成功したる事、彼等が叛亂の準備の詳細は煩雜に亘るから之を略する。(叛亂の顛末取調の爲め命せられたるハーディング委員會 [Hardinge Commission] の報告を見よ)。叛亂の際「愛蘭義勇兵」は一萬三千人乃至一萬五千人を算し、二千五百挺のライフル銃を有つて居たと想像せられて居る。

三

ゲェリック同盟 (Gaelic League) は前述の「新愛蘭運動」の他の一團體であるが、此團體は「愛蘭義勇兵」に投じて、シン・フェインと軍事行動を共にしたけれど、其成立の起原に於ては大に後者と異つた所がある。ゲェリック同盟の目的は愛蘭固有の文化を復活させるに在る。即ち宗教、文學、藝術等の精神的要素に依つて愛蘭人を統

合し、茲に眞個の國民的精神を養成しやうと云ふのである。果して實行の如何は兎に角其目的に於ても、又其方法に於ても多く賞賛す可き運動たるを失はぬ。是等の方法に依つて先づ愛蘭の國語を復活せしめ、以てケルティック愛蘭の教訓及傳説に對するインテレストを刺戟しやうと努力しつゝある。ゲェリック同盟の此國語復古運動は「新愛蘭」の運動中比較的効果あるものと稱せざるを得ない。愛蘭の國語が如何なる特長を具へて居るかに就ては既に前編に於てグリーン夫人の説を引用したのであるが、此國語は久しい以前から使用を禁止せられ、上流社會教育ある社會の間には全く跡を斷つて居る。然し如何に官憲や學校教師の力を以てしても愛蘭の一部分に於ける農民の多数が依然之を使用することを杜絶する譯に行かなかつた。愛蘭の一部教育ある男女の間には、絶えず純粹の文學としてゲール語を研究して、或は古代の詩歌を翻譯したり、或は論文を以て愛蘭の古文學を紹介して、世界に向つて愛蘭に國民生活の存在したる事を警告する學會が存續して居た。マコーレーの後繼者と稱せらるゝ愛蘭出身の歴史家ジャースチン・マツカーシーの愛蘭文學に對する所説を左に原文の儘引用する。

The genuine literature of Ireland seems to breathe the very atmosphere of the Island to be informed by the spirit of its national traditions and temperament. Amid and around the most beautiful Irish landscapes there is a certain air of melancholy which seems to diffuse itself through the earliest literature of the race and to give to even the most thrilling and passionate descriptions, whether of human emotion or of physical struggle, the idea of a mind unsatisfied with the realities of man's ambition and man's success, and a yearning after higher things than the life of earth has to show. The rescue and restoration of so valuable and so thoroughly national a literature would indeed be a great success for the intellect of modern Ireland to achieve, and there is every hope that so good a result may be accomplished within our day. A general diffusion of the knowledge of Irish as a speaking language among the educated classes would itself be a great gain to the country, and would secure for its nationality a wider recognition. (Mc Carthy's History of Our own Times Vol. V P. 41)

ゲェリック同盟は愛蘭人の自から誇りとする愛蘭文學の復古を希望する愛蘭心が、晩近の「新愛蘭運動」に依つて一層の刺戟を受けたる結果に外ならぬ。愛蘭人をして政治的に勇健で組織あり統一ある國民たらしめむとするはシン・フェインの精神であるが、愛蘭人固有の本能と天才を奨励し發達せしむるには、先づ彼等を英國化することから救済し、愛蘭が古來特有するケルティック的藝術、遊戲殊にゲ

ール語の復活を圖らむとするのがゲェリック同盟の目的である。約言すれば、シン・フェインの運動が政治的なるに反して、ゲェリック同盟の運動は社會的教育的であるのである。

四

シン・フェイン及びゲェリック同盟の外、尙愛蘭には二個の不穩分子があつた。「愛蘭共和政同胞團」(Irish Republican Brotherhood)と「愛蘭市民軍」(The Citizen Army)である。フェニアン同胞團(本誌昨年十二月號四四—四六頁参照)の正系たる「愛蘭共和政同胞團」は英國に對し不倶戴天の敵念を有する頗る少數の團體である。獨逸と愛蘭革命黨との連鎖となり、「愛蘭義勇兵」を組織し武装せしむるに必要な金銭及び煽動者等を獨逸や米國方面から愛蘭に召募する連絡を取つたのは、多分此團體であらう。然し今回大戰に際し英國の敵と内通したる事以外、此團體は多く云ふに足りないのである。

次に「愛蘭市民軍」は今回のダブリン暴發叛亂の最後の瞬間に於ては恐らく最も與つて力あつたのであるが、是れは他の團體と異つた性質のものである。ジエー

ムス・コンノリーの率ゐたる「愛蘭市民軍」は政治上の結社ではなくして、寧ろシン・デ・イカリストである。一九一三年愛蘭の大ストライキを煽動して失敗したるジム・ラーキン一派と密切なる関係があるやうである。此團體は政治的革命よりも寧ろ社會的經濟的の革命を主張して居た。換言すれば、此團體には別段政治的の思想と云ふ可きものはなく、單にダブリン貧民窟の慘狀を救濟せむが爲前上の諸團體と行動を共にしたと見る可きである。一九一四年二月庶民院に報告せられたるダブリン労働社會生活狀態調査委員會の青書に據れば、苟くも愛蘭の首部に此の如き貧民窟が存在するやを怪まざるを得ない程、讀者をして凄慘の感を催さしむるものがある。英國の如何なる都市に比べてもダブリンの貧民長屋ほど一室に一家族の住居する割合の多い處はない。随つて是等貧民窟に於ては、不潔と云ふことも、プライベエシイ(隠す可きこと)を隠す事と云ふ所も、又自尊と云ふことも、全く知られて居ない。衛生上の設備も亦實に忍ぶ可らざる狀態で、道德の標準亦野蠻人の夫れと多く、擇ぶ所はない。此の如き場處に於て養育せられる兒童の教育こそ眞に悲惨なるもので、其の精神上肉體上に與る恐る可き影響は寒心に堪へ

ざるものである。ダブリンの住民の約二割八分をして、アイリッシュ・タイムス紙の所謂「ダンテの地獄の卷の光景にも劣らざる慘狀に沈淪せしめた責任はダブリン市會が勿論之を負はねばならぬこと云ふ迄もないが、此の如き慘狀は單にダブリンの貧民窟に止まらずして、愛蘭の南部各都市に共通の顯象である。是れは職として過去に於て愛蘭人の生活狀態をして貧困ならしめ、随つて彼等をして無學無智ならしめたる英國爲政者の責任であると、コンノリー一派は主張するのである。故にコンノリー及び「愛蘭市民軍」は、最初からシン・デ・イカリストの唱道する經濟的革命を以て其目的として居たのである。

愛蘭の征服は愛蘭の民衆をば社會的乃至政治的に奴隸の境涯に擠すことであつた。故に愛蘭の克復は愛蘭に於ける有ゆる男女子供を奴隸の境涯から救つて社會的並びに政治的獨立を與ることであらねばならぬ。別言すれば總ての愛蘭人に依つて「愛蘭を共有することである。

此の如き主張を提げて戦ひたるコンノリー一派は英國に敵對せしと均しく、愛蘭の中等階級を代表したる政治家並びに彼等の國民黨的理想にも反對したので

ある。といふのは、是等の政治家が英國人と均しく、資本家的制度と其社會的並びに經濟的支配を維持せむとするからである。即ち愛蘭市民軍は愛蘭の政治的動亂に乗じて、他の英國政府及び愛蘭國民黨を共同の敵とする諸團體と呼應して經濟的革命の目的を達せむとしたる、シン・ディカリストの所謂「直接行動」(“direct action”)に出でたのである。叛亂勃發の後公布せられた愛蘭共和國宣言書の中「吾人は茲に愛蘭を所有し、其の至上にして破却す可らざる自家の運命の完全なる支配に對する愛蘭人の權利を宣言す」と云ふ語は、明かにコン・ノリイ一派の主張に由るのである。

五

以上の諸團體は大戦破裂後、シン・フェインを中心して漸く結合を固うしたのであるが、是等の過激派が開戦の當初から英國政府に對して異圖を抱いて居つたか如何かと云ふことは今尙疑問である。然し英國の窮境は愛蘭の機會である」と云ふのが是等一派のモットーであるから、苟くも英國との分離を策す可き好機を見て、愛蘭の過激黨たる者は決して之を看過するのではない。英國政府はレドモン

ドが愛蘭に於ける募兵を其一手に委託せよとの要請を拒絶したにも拘らず、戦局の發展と共に多々益々兵員の不足を感じて愛蘭にも募兵を試みたのであるが、シン・フェイン一派は或は種々の會合を催ふし、或は新聞雜誌小冊子を發行し、或は引札貼紙等の手段を用ひて熾に募兵運動を妨害した。愛蘭總督政廳でも最も甚だしき新聞雜誌の發行を禁止し、最も目立つた過激分子を捕縛したけれど、後にシン・フェイン一派は公然背叛の舉動を演じて憚らざるに至つたので、殆ど手を下す能はざる状態であつた。下手に手出しをしやうものなら、歐羅巴の大戦を控へて愛蘭は蜂の巢を突ついた騷動を惹起さぬとも限らない。愛蘭太守ウィムブルン男、愛蘭大臣パレル氏の此傍觀政策は種々の非難を招いたけれど、今にして之を思へば、却つて賢明なる處置であつたかも知れぬ。

一方に於て愛蘭自治案は夙に法律となつて居るけれど、果して何時から實施せらる可き見當が着かない。連立内閣は成立して、サー・エドワード・カーソンは内閣員に舉げられた。是れが愛蘭の過激派に一方ならぬ不安心を與へた。更らに他方に於て獨逸軍は連戦連勝し、英國軍の誤算やら失敗やら頻々と暴露され、戦争は

何時果つ可くも見えない。加之英國會は強制徵兵令其他の戰時法律を發布したけれど、愛蘭からは之を除外せざるを得なかつた。仍で英國政府は畢竟是等を愛蘭に強制するの結果を恐れたのである。否其能力を缺いたからであるとの信念が、一方に廣く戦局を達觀するの不明と相待つて、以上過激派の各團體の領袖連をして、革命を起して之を成功する眞實の機會が到來したと判断せしめたのである。既に一度事を起さむか、米國からも義勇兵其他物質的の援助到來す可く、苟くも英國政府に不平なる各要素は翕然として彼等に加擔す可く、一舉に多年の目的を達す可しとは、彼等當初の打算であつたであらう。愈々暴發までの徑路は之を明にする由もないが、概括して言へば事實は下のやうである。「愛蘭義勇軍」の背叛的で革命的なる示威運動が甚だしくなるに連れて、騎虎の勢最早引くに引かれぬ形勢に赴いた。彼等は政廳の武装解除の命令に服従せむよりは、寧ろ戦うに如かずと公言するに至つた。然も政廳に於ても最早何時までも傍觀の態度を守る能はざる事が結局明白なる勢となつて來たので、「愛蘭義勇軍」の方では解散するか然らずむば其領袖連の捕縛を見るの外なかつた。仍で獨逸から武器の到着する(恐らく

獨逸軍隊も上陸する筈であつたであらう)と相圖として、愈々事を發するやう仕組まれたのである。先づケルリイ丘陵に兵を擧げ、獨逸の武器と獨逸の指揮とを以てすれば、愛蘭駐屯の少數なる英兵が、叛徒を鎮壓する迄には多くの時日を要するであらう。駐愛の英軍が此鎮壓に追ない間、タブリンを始め愛蘭の他の地方一齊に暴發すれば、英國は勢大兵を愛蘭に送らねばならぬ事になる。是等の大兵が動員され派遣せらるゝ前に、バアレル氏の所謂「有ゆる階級有ゆる場所」に於て程度こそ違へ、又表明の方法に相違こそあれ、常に愛蘭人の政治愛蘭人の性格の背景と看做することが出来る英國との合同に對する古來の疾惡と不信に刺戟せられ、而かも革命黨員の脅嚇に因つて、結局愛蘭全土を擧げて國民的叛亂が起るであらうと云ふのが、領袖連の期待であつたやうである。以上の計略が一部少數の領袖間に仕組まれたと云ふことは、「愛蘭義勇軍」の多數士官すら獨逸との如何なる關係にも反對であつたと云ふ事實に兆しても察することが出来る。乃ち多數の過激黨は騎虎の勢に驅られて盲目的に暴動したること明白である。夫れから四月下旬巧に和蘭商船に粧うた獨逸船が愛蘭の西海岸某地點から武器を陸揚げせむとして、

英國海軍の爲に捕獲せられ、同時に是れと同乗のサー・ロトジャー・ケトスマントは捕縛せられた。此失敗が俄かに復活祭月曜日(四月廿四日)ダブリン暴發を誘起したること云ふ迄もない。

六

四月廿四日は復活祭月曜日と云ふので、ダブリンでは競馬が催され、士官兵士の多数が不在であつたを好機として、愛蘭義勇軍は市の中央に集つて、正午頃先づサックヱイル街の郵便局を占領した。之を手始めとして、市街戦が凡そ一週間に亘つた。戦闘は實に慘憺たるもので、ダブリン城警衛の警官及び哨兵は一言の豫告も受けずして、銃殺された。戦線から後送せられた負傷兵まで無残に殺された。其他戦線に送る可く訓練中なる義勇兵、愛蘭駐屯の武装せざる士官兵隊等亦慘殺された者が少なくない。叛亂鎮定後、百八十人の非戦闘員が殺され、六百人以上負傷し、百二十四人の兵卒が戦死し、約四百人の負傷者を出だしたことが發見せられた。ダブリンの最も繁華なる市街は烏有に歸し、二十の大商館、三個の銀行、何十と云ふ事務所や店舗が破壊せられて、損害總額少なくとも四千萬圓に達した。叛徒鎮壓

には、愛蘭駐屯軍並びに愛蘭義勇兵が非常なる熱心を以て働いた。是等の軍隊はダブリンの愛蘭人に依つて援助せられたのであるが、彼等軍隊の働き振りは一般の賞賛を博した。五月三日バアレルは“there is no Irish rebellion.”と宣言した。是れと殆ど時を同うして、レドモンドは愛蘭國民黨は勿論恐らく愛蘭人大多數が「疾悪と恐怖の感情を以て此暴動の報を迎るであらう」と陳述した。夫れから國民黨の他の一領袖デ・イロン亦ダブリンの人民は、叛徒に反對して英國政府の味方にして忠義なる同盟者であつた」と宣言した。凡て是等の陳述は眞實であつた。ダブリンから發せられた指揮に應じて暴發した地方は幾何もなかつた。羅馬教徒が最も多く随つて、國民主義が最も盛むなるドロゲタでさへ義勇兵が忽ち叛徒を鎮壓して了つた。此處彼處に暴發した一揆も忽ち鎮壓された。要するに國民的叛亂として目す可き何等痕迹の認む可きものはなかつたのである。ダブリンの市街戦で主として愛蘭人が犠牲に供せられたのを見ても、今回の叛亂がシン・フェイン等一部過激派の企圖以上のものでなかつたことが察知せられる。此の如き一部の暴動が廣く一般の同情を惹くに足らず、結局失敗に畢る可きは勿論の事である。

七

叛亂が鎮定すると、英國官憲は愛蘭に戒嚴令を布き、軍律に照らし何等の公判を経ずして毎日の如く叛亂の巨魁を死刑に處し、又は多くの暴徒を追放したと傳へられた。仍で官憲が誰彼の區別なく多數の無辜を殺したかの如く世人に誤解せられて、愛蘭人の輿論は却つて叛徒に同情するに至り、「武斷的暴主等の殘酷なる復讐を非難する聲は高大になつた。勿論急忙の際であつたから、個人的に云へば斷罪の錯誤や不均衡もあつたであらうが、其れは此の如き場合に免れざることである。而して實際に於て十五人の巨魁は死刑に處せられ、其他は罪の輕重に隨ひ、夫れ／＼禁錮に處せられ、愛蘭義勇軍の多數は追放せられた。若し是等の暴動が平和の時に起つたならば、英國政府も多分叛徒に對して寛大の處置を採つたであらう。所が英國は國を擧げて外敵と戦ひつゝある、國家の安危存亡の岐るゝ秋に際しかゝる叛亂を起したので、之が爲め國民の士氣を沮喪せしめたること一方ならず、英國官憲が叛徒を嚴重に處刑したることは決して不當とは云へない。現に或は愛蘭共和國の宣言書に調印し、或は實際叛徒の軍隊を指揮し、或は殺人の血の儘

捕縛せられたる者をば、殊に兵馬倥傯の秋に際して處刑したればとて、決して之を以て殘酷無道なりと非難することは出来まいではないか。以上英國官憲の處置の正理に戻らざること殆ど議論の餘地はないのである。

所が叛亂既に平定したる後、英國政府の採つたる方策の中には遺憾に思はるゝ點がないでもない。叛亂靜まつて最早危険の去つた後には、出来得る限り寛大の處置に出で、處刑の場合を減じて兀奮したる人心を緩和する方策を執る可きであるに、英國政府が何時までも嚴酷の態度を改めなかつたのは遺憾である。是れが爲國家に對し不軌を企てたる故を以て當然報復を加へられた者をして殉義者の名を獲得せしむるに至つたのである。殊に英國裁判所がサー・ロージャー・ケースメントを事件後四ヶ月を徑て死刑に處したのは、愛蘭人に對する政略上最も不利益であつたと思ふ。

今回の愛蘭叛亂に少なからざる關係を有するサー・ロージャー・ケースメントに就いて茲に些か説明せしむよ。彼は愛蘭のアントリムに産れ、自由黨で自治論者である。白耳義領公果に領事として英國政府に忠勤を抽むで、後南米に領事とし

て赴任し有名なるバトマヨ殘虐事件を暴露したのは彼であつた。一九一四年度の Annual Register に據れば彼は一九一四年十一月米國を經由して伯林に行き、獨逸政府と交渉して種々の満足なる保障を得、殊に愛蘭に獨逸軍が侵入したる場合に期待する可きことに就いて確保を得たと傳へられた。著名なる愛蘭出身米國人はカイゼルが若し獨逸の戦勝した場合には、愛蘭を英國から獨立さする約束を與へたとまで述べた云々。是等の説述が何程まで事實であるかは今に於ては判斷する由もないが、彼が獨逸に行つて同地に於ける愛蘭人の捕虜に對して周旋する所あり、又其他種々何事か運動して居た事と、夫れから大戰破裂後愛蘭人の英國軍隊に應募するを妨害して居た事等は何れも事實である。最初英國政府の忠實なる官吏が忽ち態度を變へて此の如き國家に不忠なる舉動を演ずるに至つたのは、愛蘭人に共通なる傳來の排英感情の復活したる以外、何等かの動機がなくてはならぬ。或は彼の計畫したる事業が政治上の理由からして英國政府の爲に賛成せられなかつた爲だと云ひ、或はバトマヨ事件で餘り過勞したので精神に多少異狀を呈したとも云ひ、何れか眞實であるか不明である。ケースメントが謀叛の動機

は何れに在りしにせよ、彼が戦後獨逸に渡航して、今春遂に武器輸入船と共に捕はれたる事實は英國に對する叛逆罪の確證として動かす可らざるものたる事は云ふ迄もない。

ケースメントの罪狀は歴々たるものであるが、彼を他の愛蘭の叛徒同様死刑に處す可きや否やに就いては英國の朝野を通じて議論が喧しかつた。世界の耳目も此裁判の決定如何に集注せられた。戦争の爲熱狂せる英國の公衆は、英國に對する彼の非愛國的舉動に憤激して痛罵する者が多かつた。然し一方に於てケースメントの爲辯護する英米の新聞も多少はあつた。其等の辯護する所に據れば、彼は決して英國王に對して武器を執りたる者ではない。彼は又何等流血の原因でもない。彼が愛蘭の叛亂に關係せしは、唯だ叛亂を停止せしめむと希望したるに過ぎない——然も實際叛亂に對して同情を有たなかつたが爲ではなくして、却つて之が爲徒らに人命を損するが故であつた。彼の罪惡と云へば、單に愛蘭に於ける英國の政治に對して陰謀を企て、而して愚かにも愛蘭の兵士に説きて英國王に對する忠義の誓に背かせむとしたる點に在る。而かも彼の爲一人の生靈すら失

はれなかつた。吾々英國人から見れば、ケースメントは叛逆人であらう。世界の人の眼には愛國者と映ずる。彼を殺せば彼は愛國者として死するのであると云ふのである。七月廿二日のニュー・ステーツマン(シドニー・エツプ氏の主筆たる週刊雜誌)は左の如く極言して居る。

聯合側は獨逸の爲に蹂躪せられたる小弱國の自由、獨立を保護する事を戦争の目的としたのであるから、愛蘭人の爲に獨立自由を企圖したるサー・ロージャー・ケースメントを處刑するは非理である。彼を處刑するは、嘗だ罪惡たるのみならず、恐る可き大失策であつて、ヴェルダンを敵手に委す可きよりも一層有害である。何となればヴェルダンを奪はれたれば、逆之を奮還すること出来やうが、一度蹂躪せられたる道徳は之を回復することを得ないからである。既に愛蘭暴徒の巨魁を處刑したるさへ不利益であるに、此上の失敗を重ねてはならぬ云々。

我輩も英國政府が多分ケースメントを助命するであらうと期待して居たのであるが、世人多数の豫想に反して英國政府は八月上旬遂に彼を死刑に處して了つた。ケースメントの處刑が英國の對愛蘭政策上不利益であつた事は我輩の既に述べたる所である。

八

叛徒及び連累者に對する英國政府の處置の嚴重に失したる爲、英愛間に於ける古來の反感を刺戟して動もすれば不穩の形勢が見ゆるので、英國でも愛蘭でも責任の地位に在る者は齊しく叛亂の再發を防がむ事に夫れ／＼努力した。愛蘭總督政廳の制度は今回の叛亂で全然破壊されて了つたので、愛蘭は一時直接の支配者なき状態であつた。仍で英國でも愛蘭でも此機會に於て一九一四年七月行詰りとなつて居た自治法を實施せむと盡力した。夫れからアスキース首相の愛蘭視察となり、次いでロイド・ジョルジの愛蘭兩黨の仲裁となつた。ロイド・ジョルジは國民黨首領レドモンドとアルスター統一黨首領カーソン兩人の間に仲介して自治法を出来るだけ急速に實施する事、但しアルスター六州に限り當分の内其實施の範圍外に置く事の大體の取極めに同意せしめた。蓋し愛蘭國民黨側ではシン・フェイン一派が英國政府に敵對せしと同様國民黨を憎惡して居るにも拘らず

今回の叛亂に同情し加擔したるかの如く非自治派から揚言せられ世間からも誤解せられて居たので、出來得る限り交讓的態度に出たのである。然し根本の取極めは斯く一致したけれど、國民黨の側では此取極めが假決定であつて、戦後開か
る可き帝國會議 (Imperial Conference) の裁決に附せらる可き事に重きを置き、アルスター側でも六州は自己の同意に因りて愛蘭自治法の下に統治せらる可しとの意味に於て以上の除外は永久的なる可しとの意を極言した。政府は妥協の條件に就いて何れが假決定である何れが本決定であると公然たる何等の宣言をばしなかつたけれど、協定の精神は南部廿六州には自治法を即時實施し、アルスター六州に限り帝國會議の決定或は其他の方法に依つて、追つて自治法の下に支配せらる可しとの意味であつたことだけは明白であつた。換言すれば此大體の主義が假決定でなかつた事だけは確實である。

然しロイド・ジョルジの此周旋は結局失敗に了つた。彼の和協の條件なるものが世間に知れ渡ると、愛蘭國民黨の側ではアルスターの分離を以て永久の分離なる可しと猜疑して、舊教の教會先づ反對を唱へ、統一黨の側では大戦争の時機に際して愛蘭に自治を許すの國防上危険なるを切言し、殊に脆弱なる國民黨の政府組織せられても、結局シン・フェイン一派に依つて攪亂せられて、愛蘭は復たび内亂の巷となるであらうと是れ亦反對した。倫敦でも一時は此問題の論争で喧囂を極めたのであるが、妥協は遂に不調となつて、自治法の實施は無期限に延期せらるゝに至つた。此の不調に對して果して何れに責を歸す可きやは、今尙不明である。然し、要するに今回の和協條件が何れの側にも不満足であつて、之を實施せむか愛蘭は復たも鮮血を見ざる可らざる状態を呈出したので、レドモンドも、デイロンも、將た又カーソンも従つて起る可き騷擾の責任を負ふことを欲しなかつたのが、不調の原因であらねばならぬ。別言すれば、愛蘭人多數の好まざるアルスターの分離を規定し、且大戦中到底實行す可からざる總選舉を経ずして自治法を遂行せむとせし協定其れ自身が今回の不調を來たせし大原因であつて何人をも罪す可きでない。

九

以上は愛蘭に於ける今回の叛亂の顛末である。英國政府が國民的叛亂に至ら

ざる中に鎮定したるは不幸中の幸と云はねばならぬ。左はあれ、愛蘭問題は依然として英國政界の禍源である。宗教問題は夙に落着し、土地問題も既に解決を告げ、自治法もいよいよ戦後から実施せられ、随つて種々愛蘭に對する改革が行はれやうとする最も有望と思はるゝ時機に際して、今回の不祥事を見たのは英國に取つても愛蘭に取つても哀しむ可き事である。然し所謂雨降つて地は固まる。ロイド・ジョルジの仲裁は失敗に畢つたけれども、今回の協和談判に依つて犬猿管ならざる愛蘭の國民黨と統一黨と漸く接近の傾向を示して來たのは顯著なる事實である。統一黨の多數と雖關係諸黨の何れをも協調せしむ可き方法が講せられて、少數黨の權利を確保し、宗教の寛容と英國憲法の大本たる個人の權利が保障されるゝならば、固より自治法の必要を認めて居るのである。レドモンドを始め國民黨に於ても、愛蘭國民の健全なる分子が英帝國及び其理想とする所に對して忠誠なる事を今回の大戦に依つて證明したるのみならず、帝國防禦の爲には莫大なる犠牲を拂ふも尙且辭せざる奉公の精神を發揮したのである。夫れからシン・フェインの叛亂に依つて愛蘭が全然英國から分離する精神が何程迄に強いかと云ふ

事も試験せられた。愛蘭の獨立熱は其實シン・フェイン一派の唱道するが如く其れ程に強烈でない事は其企畫自身に固有する弱點と、今回の暴動に依つて示されたる到底不可能事たるに依つて、具眼の士の看取したる所である。彼等は *„Ourselves alone”* をモットーとして愛蘭の獨立を要求するけれども、愛蘭が一個單一の國民でない事は今回の暴動に依つて益々明白に確證されたる所である。ロイド・ジョルジの仲裁は失敗したけれど全體の愛蘭自治問題を戦後の帝國會議の裁決に依つて決するとしたものは兎に角一進歩を見ねばならぬ。何となれば、愛蘭自治を英國對愛蘭の問題として取扱へばこそ、歴史的の憎悪反感が刺戟せらるれ、愛蘭を以て英吉利帝國を組織する一要素として見れば、最早英國と愛蘭との關係ではなくして、愛蘭は英國と均しく英帝國聯邦の一國たるに至るからである。此の如くして愛蘭の國民黨もアルスター派も互に過去の紛争を一掃して、對英の執着と反感とを忘れ飽く迄も英吉利帝國の一要素として愛蘭の自治を行ひ、和衷協同するに努めむか、シン・フェイン等の過激派が全然愛蘭の獨立を主張しても固より少數であるから之を壓伏するを得べく、愛蘭の事又決して悲觀す可きでないと思ふ